

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 東ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	令和3年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/Z3/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392700049-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
聞き取り調査日	令和3年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く平屋建て。緑を多くとり入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと利用者で緩やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。
 季節の行事に合わせた献立やレクリエーションに取り組み、コロナ禍で外出が減っても退屈せず毎日を送れるように取り組んでいる。
 医療法人が母体であり、看護師を配置し利用者の健康管理と医師との連携に努めており、安心してお過ごしいただけるよう体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内リビングに理念を掲示している。「明るく笑い楽しめる心安らぐ家」を皆で共有しているが、ケアの中で意識していない場面も見られる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前は地域の老人クラブとの交流や地域の運動会に参加させていただきなどしていたが、現在は全くない。散歩に出かけ地域の方と挨拶をかわす程度になっている。回覧板をまわしていただいている。以前交流のあった地域の方が、時々お花を届けてくださる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の老人クラブにて認知症予防講座や、グループホームについて知っていただく機会があったが、地域の集まりや活動も自粛しており、今は特に取り組んでいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催していない。2か月に一度文章にて開催に代わるものとして報告している。		
5	(4)	愛知県新城市黒田字大岡132番地2 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新の申請代行などに伺うのみ。質問等はメールや電話で行える。市の担当者からは研修の案内などの情報もメールでいただける。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を2か月に一度行っている。身体拘束廃止のための勉強会を行い、そのまま引き続き委員会としているので、職員にも理解してもらい易くなった。不適切ケアの自己チェックも行い活用している。身体拘束該当の事例はなし。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会の中で、虐待についての話なども取り入れ勉強会をしている。接遇や挨拶など小さなことから気をつけ取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度は時々ご家族から相談もあり、管理者は制度の勉強はしている。(過去に研修もうけた)家族の要望に応じて支援している。職員は勉強の機会がない。今年度ホーム内勉強会で行う予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約は管理者にて家族に説明し行っている。入居後は不安や疑問に応じて家族の質問にその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族に様子を伝えている。また新聞発行にて、ホームの様子を知っていただく。管理者からは電話で様子を報告したり、ご家族にお話をお聞きしているが、職員もできるだけ声をかけお話しするようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、様子を見て必要に応じ管理者と職員との個別の面談を行い聞き取りを聞き取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようになっている。ユニットごとに役割や入居者担当を決め実践する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度からは2か月に1回勉強会も担当制にして行っている。ユニット長も年ごとに交代して行い、それぞれのスキルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム管理者同士の情報交換は行っているが、それ以外は特に取り組みはしていない。外部研修への参加程度。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面談や家族からの聞き取りにて情報収集を行い、職員に伝えるようにしている。困りごとや不安などお聞きして職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、質問をお聞きし、その都度説明している。職員又は状況に応じて管理者から説明、対応、改善策を提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多様な方法を伝えている。入居についての相談時は入居費用だけでなく、津島市にある他のサービスについても情報を伝え選択していただくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見を聞き確認し、了解の上で支援するようにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会ではできる限り制限せずに感染対策をしながら、面会していただけるように努力している。ご家族の面会時はできるだけゆっくりとあっていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りなど近い場所であれば、できるだけ付き添い外出できるように支援している。以前はなじみの喫茶店などにも順番に出かけたが、できなくなり残念である。家族や親しい人へ絵手紙を出せるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで交流の機会が持てるように席の配置も考えている。コロナ禍での外出が減り、入居者同士の人間関係が円滑に行くように支援する難しさも感じている。居室で一人で過ごす時間も大切であると感じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族からの相談に対応することもある。受診時や次の施設の職員に申し送りなどのため出向くこともある。必要な書類の作成のための支援も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前のアセスメントでご本人家族の意向を聞くように努めている。時間のあきだけになるが1対1で話を聞く機会を作り、気持ちや考えをお聞きするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴などお聞きして、写真などあれば持ってきていただくようお願いしている。得意だったことなどをケアプランに取り入れご支援できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限り希望をお聞きし、実現できる方法を検討する。会話だけでなく表情や行動などから読み取りどのような過ごし方が好きなのかも職員間で情報交換する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は半年に一度ケア会議を行い情報交換し支援方法の見直しを行う。モニタリングについては毎月行う。体調など変化があれば臨時で変更を話し合うこともあるが、変化の少ない方への対応は話し合いをしても変わらないこともある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事や変化など中心に記録する。記録は出勤時に確認し情報収集に努める。変更や新たに継続するケアについては、口頭でも申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の機会が減り、入居者の必要なものは代理で購入や家族に依頼する形になった。おやつ時にバイキング形式にしたり自販機での購入を散歩時に行ったりなど小さなことではあるがご要望に応じてできる形を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は減っている。花を届けてくれる方がいて、それを楽しみに花を活ける入居者がいるなど小さなことを継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は管理者(看護師)が支援しているが、本人や家族の希望の医療機関を受診している。主治医に直接様子を伝えることができ、質問もできるので良いと思っている。受診結果はご家族に伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の様子に異変を感じたり、小さなことでも看護師に報告し、対応している。夜間なども電話で相談し、状況に応じて対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には看護師が同行し、情報交換している。医師・看護師・相談員等多職種との連携を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのケアについては入居時にも説明をしている。病状変化時、悪化時等状況に応じて毎回説明を行い、病院やほかの施設との違い、メリット、デメリットを伝え選択していただくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度より2ヶ月に一度担当職員にて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を実施。設備点検業者の指導のもと、消火器の使い方や、設備の使用方法など学ぶ。台風・水害時の避難場所の併設施設2階会議室への誘導訓練など行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付け、なれなれしい話し方にならないように気を付けている。排泄のことなど大きな声で話さない、入浴介助時、排せつ介助時の羞恥心に配慮する。家事などお願いしたときには感謝の言葉を忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やお墓参りなど希望に合わせて対応できるように努力はしている。なかなか希望を伝えられない方も増え、無理強いすることはなくても、介護者側からの働きかけがもっと必要だと感じているが、時間に追われ出来ていないことが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク、歩行練習などご本人の希望を確認しながら実施しているつもりだが、時間帯など希望に合わせてられず、介護者のペースで行っていることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の美容院。職員にて希望の方に毛染めを行う。一緒に服を選ぶことも減り、職員のペースになっている。毎朝ブラシで髪を整えていただく。職員にて身だしなみを整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所で調理に参加できる方がへったが、野菜の皮むきや、盛り付け、食後の食器拭きなどその方に出来る事をお願いしている。調理参加しない方でも台所で調理を見る事で落ち着かれたり笑顔になる場面も見られる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員が順番に作成。食欲の少ない方の為にメニューを変更したり、食べられそうなものを別で作って少しでも召し上がって頂ける様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯の洗浄、口臭のある方には舌ブラシの使用などケアに努めている。毎回マウスウォッシュを利用。不十分な方には職員にて仕上げ磨きを行う。口腔内・歯の事については歯科受診。コップ歯ブラシは毎日消毒。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用。時間ごとの誘導や、表情や様子から誘導する方などさまざまである。個々の様子に合わせた支援だが、自立に向けて評価して改善を試みる機会は少なくなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品をメニューに多く取り入れる。コーヒーなどにオリゴ糖を使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は時間も限りがあり、職員のペースになっていることが多い。拒否される方に無理はせず、時間を空ける、トイレに行ったときにそのまま入浴に誘うなどご本人が受け入れやすい方法で支援する。入浴剤は2種用意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、すぐに居室で寝てしまうと夜間不眠になるため、昼間のレクや夕食後も片付けの食器拭きを手伝っていただいたり、テレビを見ていただく等、夜間覚醒の予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はカルテにあり、いつでも確認できる。症状に変化があったり、疑問なときは看護師に確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物畳みなど行っていただく。お花を生ける方、塗り絵、作品作りを熱心に行う方、毎日献立を書いて頂く方など、個々に役割をもっていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はほとんどなく、近隣の散歩が多い。今後、気候が良くなったら天王川公園など外出したい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は、預り金にて必要なものを代理で購入。散歩中に自販機でジュースを購入希望の方もいて、ケアプランにて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には電話の取次ぎもできるが希望される方は少ない。面会制限で、会う機会が減り、絵手紙を送るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはカーテンで採光の調節を行い配慮している。出来るだけ落ち着いて過ごして頂ける様に、音楽をかけ、整理整頓に心掛けています。ソファや椅子にクッションやひざ掛けを用意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルは、トラブルの無い様に気の合う方同士で気軽にすごせるようにしている。集団レクなども気分によって参加されないこともあるが無理強いしないように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がなじめるように、かつ安全にすごして頂ける様に配慮している。写真など飾って頂ける様にボードなど準備している。ご家族や身近な方の写真をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは文字で案内し、居室も個々の名前などわかりやすく掲示している。必要な方はセンサーコールや押しボタンを設置し、職員がすぐに対応出来る様にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 西ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果市町村受理日	令和3年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kazokensaku.nhlw.go.jp/Z3/index.php?action_kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2392700049-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2		
聞き取り調査日	令和3年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地も広く平屋建て。緑を多くとり入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと利用者で緩やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。
 季節の行事に合わせた献立やレクリエーションに取り組み、コロナ禍で外出が減っても退屈せず毎日を送れるように取り組んでいる。
 医療法人が母体であり、看護師を配置し利用者の健康管理と医師との連携に努めており、安心してお過ごしいただけるよう体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内リビングに理念を掲示している。「明るく笑い楽しめる心安らぐ家」を皆で共有しているが、ケアの中で意識していない場面も見られる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の老人クラブとの交流や地域の運動会に参加させていただきなどしていたが、現在は全くない。散歩に出かけ地域の方と挨拶をかわす程度になっている。回覧板をまわしていただいている。以前交流のあった地域の方が、時々お花を届けてくださる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域の老人クラブにて認知症予防講座や、グループホームについて知っていただく機会があったが、地域の集まりや活動も自粛しており、今は特に取り組んでいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催していない。2か月に一度文章にて開催に代わるものとして報告している。		
5	(4)	愛知県新城市黒田字大岡132番地2 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険更新の申請代行などに伺うのみ。質問等はメールや電話で行える。市の担当者からは研修の案内などの情報もメールでいただける。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を2か月に一度行っている。身体拘束廃止のための勉強会を行い、そのまま引き続き委員会としているので、職員にも理解してもらい易くなった。不適切ケアの自己チェックも行い活用している。身体拘束該当の事例はなし。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会の中で、虐待についての話なども取り入れ勉強会をしている。接遇や挨拶など小さなことから気をつけ取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は時々ご家族から相談もあり、管理者は制度の勉強はしている。(過去に研修もうけた)家族の要望に応じて支援している。職員は勉強の機会がない。今年度ホーム内勉強会で行う予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約は管理者にて家族に説明し行っている。入居後は不安や疑問に応じて家族の質問にその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族に様子を伝えている。また新聞発行にて、ホームの様子を知っていただく。管理者からは電話で様子を報告したり、ご家族にお話をお聞きしているが、職員もできるだけ声をかけお話しするようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	不定期ではあるが、様子を見て必要に応じ管理者と職員との個別の面談を行い聞き取りを聞き取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できるようになっている。ユニットごとに役割や入居者担当を決め実践する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度からは2か月に1回勉強会も担当制にして行っている。ユニット長も年ごとに交代して行い、それぞれのスキルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム管理者同士の情報交換は行っているが、それ以外は特に取り組みはしていない。外部研修への参加程度。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の面談や家族からの聞き取りにて情報収集を行い、職員に伝えるようにしている。困りごとや不安などお聞きして職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安、質問をお聞きし、その都度説明している。職員又は状況に応じて管理者から説明、対応、改善策を提案している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多様な方法を伝えている。入居についての相談時は入居費用だけでなく、津島市にある他のサービスについても情報を伝え選択していただくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意見を聞き確認し、了解の上で支援するようにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はできる限り制限せずに感染対策をしながら、面会していただけるように努力している。ご家族の面会時はできるだけゆっくりとあっていただけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りなど近い場所であれば、できるだけ付き添い外出できるように支援している。以前はなじみの喫茶店などにも順番に出かけたが、できなくなり残念である。家族や親しい人へ絵手紙を出せるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで交流の機会が持てるように席の配置も考えている。コロナ禍での外出が減り、入居者同士の人間関係が円滑に行くように支援する難しさも感じている。居室で一人で過ごす時間も大切であると感じている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族からの相談に対応することもある。受診時や次の施設の職員に申し送りなどのため出向くこともある。必要な書類の作成のための支援も行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前のアセスメントでご本人家族の意向を聞くように努めている。時間のあきだけになるが1対1で話を聞く機会を作り、気持ちや考えをお聞きするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴などお聞きして、写真などあれば持ってきていただくようお願いしている。得意だったことなどをケアプランに取り入れご支援できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できる限り希望をお聞きし、実現できる方法を検討する。会話だけでなく表情や行動などから読み取りどのような過ごし方が好きなのか職員間で情報交換する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本は半年に一度ケア会議を行い情報交換し支援方法の見直しを行う。モニタリングについては毎月行う。体調など変化があれば臨時で変更を話し合うこともあるが、変化の少ない方への対応は話し合いをしても変わらないこともある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事や変化など中心に記録する。記録は出勤時に確認し情報収集に努める。変更や新たに継続するケアについては、口頭でも申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物の機会が減り、入居者の必要なものは代理で購入や家族に依頼する形になった。おやつ時にバイキング形式にしたり自販機での購入を散歩時に行ったりなど小さなことではあるがご要望に応じてできる形を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用の機会は減っている。花を届けてくれる方がいて、それを楽しみに花を活ける入居者がいるなど小さなことを継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は管理者(看護師)が支援しているが、本人や家族の希望の医療機関を受診している。主治医に直接様子を伝えることができ、質問もできるので良いと思っている。受診結果はご家族に伝えるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の様子に異変を感じたり、小さなことでも看護師に報告し、対応している。夜間なども電話で相談し、状況に応じて対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には看護師が同行し、情報交換している。医師・看護師・相談員等多職種との連携を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのケアについては入居時にも説明をしている。病状変化時、悪化時等状況に応じて毎回説明を行い、病院やほかの施設との違い、メリット、デメリットを伝え選択していただくようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度より2ヶ月に一度担当職員にて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を実施。設備点検業者の指導のもと、消火器の使い方や、設備の使用方法など学ぶ。台風・水害時の避難場所の併設施設2階会議室への誘導訓練など行う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いには気を付け、なれなれしい話し方にならないように気を付けている。排泄のことなど大きな声で話さない、入浴介助時、排せつ介助時の羞恥心に配慮する。家事などお願いしたときには感謝の言葉を忘れないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩やお墓参りなど希望に合わせて対応できるように努力はしている。なかなか希望を伝えられない方も増え、無理強いすることはなくても、介護者側からの働きかけがもっと必要だと感じているが、時間に追われ出来ていないことが多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレク、歩行練習などご本人の希望を確認しながら実施しているつもりだが、時間帯など希望に合わせられず、介護者のペースで行っていることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の美容院。職員にて希望の方に毛染めを行う。一緒に服を選ぶことも減り、職員のペースになっている。毎朝ブラシで髪を整えていただく。職員にて身だしなみを整えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所で調理に参加できる方がへったが、野菜の皮むきや、盛り付け、食後の食器拭きなどその方に出来る事をお願いしている。調理参加しない方でも台所で調理を見る事で落ち着かれたり笑顔になる場面も見られる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは職員が順番に作成。食欲の少ない方の為にメニューを変更したり、食べられそうなものを別で作って少しでも召し上がって頂ける様に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯の洗浄、口臭のある方には舌ブラシの使用などケアに努めている。毎回マウスウォッシュを利用。不十分な方には職員にて仕上げ磨きを行う。口腔内・歯の事については歯科受診。コップ歯ブラシは毎日消毒。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用。時間ごとの誘導や、表情や様子から誘導する方などさまざまである。個々の様子に合わせた支援だが、自立に向けて評価して改善を試みる機会は少なくなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品をメニューに多く取り入れる。コーヒーなどにオリゴ糖を使用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は時間も限りがあり、職員のペースになっていることが多い。拒否される方に無理はせず、時間を空ける、トイレに行ったときにそのまま入浴に誘うなどご本人が受け入れやすい方法で支援する。入浴剤は2種用意している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後は、すぐに居室で寝てしまうと夜間不眠になるため、昼間のレクや夕食後も片付けの食器拭きを手伝っていただいたり、テレビを見ていただく等、夜間覚醒の予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はカルテにあり、いつでも確認できる。症状に変化があったり、疑問なときは看護師に確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯物畳みなど行っていただく。お花を生ける方、塗り絵、作品作りを熱心に行う方、毎日献立を書いて頂く方など、個々に役割をもっていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はほとんどなく、近隣の散歩が多い。今後、気候が良くなったら天王川公園など外出したい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は、預り金にて必要なものを代理で購入。散歩中に自販機でジュースを購入希望の方もいて、ケアプランにて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には電話の取次ぎもできるが希望される方は少ない。面会制限で、会う機会が減り、絵手紙を送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはカーテンで採光の調節を行い配慮している。出来るだけ落ち着いて過ごして頂ける様に、音楽をかけ、整理整頓に心掛けています。ソファや椅子にクッションやひざ掛けを用意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルは、トラブルの無い様に気の合う方同士で気軽にすごせるようにしている。集団レクなども気分によって参加されないこともあるが無理強いしないように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がなじめるように、かつ安全にすごして頂ける様に配慮している。写真など飾って頂ける様にボードなど準備している。ご家族や身近な方の写真をお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは文字で案内し、居室も個々の名前などわかりやすく掲示している。必要な方はセンサーコールや押しボタンを設置し、職員がすぐに対応出来る様にしている。		